

# フェルトで作るカラフルなアクセ

新興・個性派

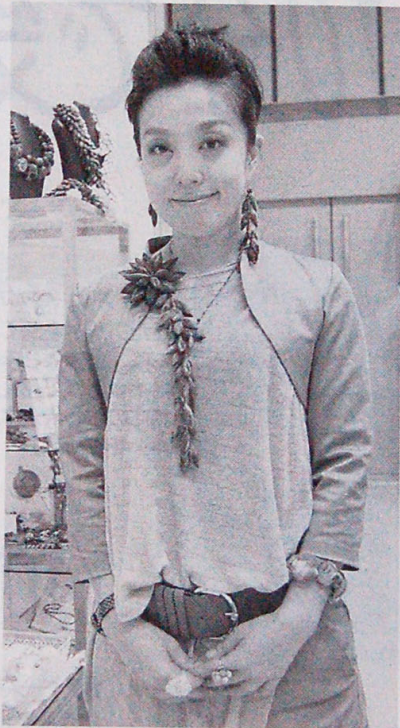
ヒト／コト／モノ

マーブル柄でカラフルな色が特徴の「シムシム」はフェルトでできた珍しいアクセサリーだ。「元々は趣味で自分用に作っていた。販売しようとは思っていなかった」とシムシムアンリミテッド(大阪府枚方市、電話072・813・9733)の桑山聖子社長兼デザイナー。合同展示会への出展も始め、フェルトアクセサリーを広めていく。

## スタンス

シムシムアンリミテッド社長  
兼デザイナー

桑山聖子さん



## 一粒ずつゆっくりの作り込む

〇〇にこだわりの方は簡単。オリジナルを含め100色以上ある国産メリノウールから4色を組み合わせて、手で丸める。特別な機械や道具は必要ない。そのため、14人のスタッフはほとんどが主婦。自宅で商品を作ってもらっている。

丸めるだけといっても実際はそう簡単にはいかない。「継ぎ目が見えないようにしたり、均一のマーブル柄を出すには、実は高度な技術が必要」(桑山聖子

さん)。そのため、研修期間は毎日丸め続けて、そのたびに検品リターに見てもらおう。丸の形や柄の出方でおかしな箇所について指導する。「重さが〇〇〇に変化するだけで、全体のバランスがおかしくなってしまう」と、専用の計量機を使って重量の調整もこまめにしている。

継ぎ目がなく、柄も均等のきれいな粒を作る秘訣は「企業秘密」。しかし、一つだけ教えてくれたのは一つの丸を作るのに時間を掛けること。優しく包むようにゆっくりと丸め続ける。均一な粒ができたところにオーガニックせっけん水をつけて力を入れて、圧縮して固める。

一粒のピアスならそれに金具を付ければ完成だが、10以上の粒を用いたネックレスやチョーカーは一日に2、3個作るのが限界だ。素材自体に高価な金属を使っているわけではないもの

企画数は65型まで増えた



海外展示会にも出展  
桑山さんは京都精華大学を卒業後、ウエブデザイナーとして就職。約4年勤めて、退社してからは趣味でピアスを使ったネックレスを作っていた。偶然デキスタイルに詳しい知人がそれを見て「毛で作ってみたら面白いんじゃないか」と言われた。いざ作ってみると「色を自由に混ぜ合わせてマーブル柄を作るのがすごく楽しかった」。作った作品を自分のホームページに掲載している。と百貨店から声が掛かり、思い切った催事販売に参加した。店頭販売は初めてだったが、1週間で15万円を売り上げ「自分の作ったものが買ってもらえる喜びを感じた」。その後はデザイナーが集まるイベントなどに出て販売会を続け、06年にシムシムを立ち上げた。前期(12年7月期)は百貨店の催事販売とネット販売のみで売上高は約200万円。卸販売を始めるため、10月に渋谷ヒカリエ・ヒカリエホールで開催された合同展「アラグイン」に出展。百貨店や専門店など数十社の小売店と名刺交換をした。来年1月にはパリの雑貨見本市、ブルミエールクラスへの出展も決まっている。「海外へフェルトアクセサリーの魅力を発信したい」と意欲を燃やす。